

平成24年6月18日

第3回被災地小学校支援報告

NPO法人ガーデンを考える会では、東日本大震災地域の小学校に対する支援活動として、昨年に引き続き岩手県釜石市の小学校4校及び宮城県気仙沼市の小学校11校に、3回目の支援活動を6月の13～14日に行いました。

ガーデンを考える会では、両地区の小学校を対象とした長期的な支援プログラムを計画し、花壇やコンテナへの花や野菜の植え込みを通して、植物に係る児童教育の一環として役に立ってもらおうと考えています。

今回は気仙沼市の小学校8校に訪問し、その内の4校は授業活動として会員有志9名と共に花苗や野菜苗等の植え込みを行いました。その他の気仙沼市の小学校3校及び釜石市の小学校には、花苗や植え込み資材の提供をいたしました。

支援内容としては、春から夏花壇向けの1年草を主体とした花苗を約2,300ポット、ミニトマトを主体とした野菜苗を約350ポット、グリーンカーテン用の苗を約100ポット、それを植え込むコンテナを250ポット、培用土を約10t、及び肥料・野菜用支柱・グリーンカーテン用のネット等を、会員メンバー及び園芸業界被災地支援の会（中島吉之代表）から募り、秋まで楽しんでもらえるコンテナや花壇・グリーンカーテン作りのお手伝いです。

当日は2班に分かれ、小原木小学校・鹿折小学校・九条小学校・中井小学校・唐桑小学校・松岩小学校・面瀬小学校・階上小学校を訪れ、1年生から6年生までの多くの児童と一緒に植え込み、その内の小原木小学校では、隣接する仮設住宅30戸の皆さんと総勢100名程で2時間近くをかけ植え込みを行いました。また、併せて今後の支援活動の希望等の聞き取り調査等を行いました。

先生方の話によると、児童を取り巻く社会環境が大きく変化する中、個々の児童の生活環境に格差が現れ始め、それが次第に様々な面で問題の芽となってきたことを危惧されている内容もありました。また、校庭の一部が津波による海水の浸水で、樹木に深刻な影響が出てきていると心配しておられる小学校もありました。

殆どの小学校では、以前のような「緑化」に関する予算を組む余裕はなく、かといって国や自治体からの震災復興予算には優先順位があり、学校花壇や校庭の樹木類に予算が充てられるようなことは、当分の間は期待できないような状況です。現状では民間からの支援に頼るしかないとのことで、我々の会からの長期的な支援の取り扱みには、大変有難いし期待もしているとのことでした。

震災から1年以上たち、ともすれば被災地域への支援活動への関心は薄れていきがちな雰

困気もあるようです。しかしながら実際に現地に来てみると、震災直後とは異なった幅広い支援が必要になってきます。

ガーデンを考える会では継続的な支援活動として、今年の秋に4回目の支援活動を予定しています。ぜひ多くの皆様が、これらの活動に参加して頂けるように願っています。

NPO法人ガーデンを考える会

会長 水野 隆



小原木小学校



鹿折小学校



九条小学校



中井小学校

支援活動協賛会員等

アップルウェア (株)、さんこうえん、(株) シモジマ、(有) 角田ナーセリー、豊明花き (株)、中島商事 (株)、(株) 花ごころ、(株) ハクサン、ハクサンインターナショナル (株)、北越農事 (株)、(株) 牧野、(有) 緑化技研、(株) レイハウス、園芸業界被災地支援の会